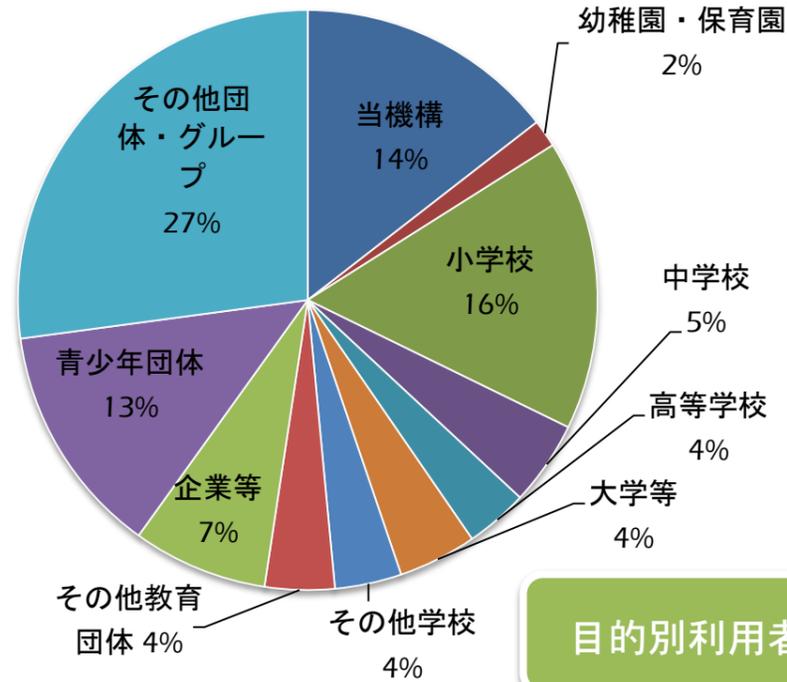


利用状況

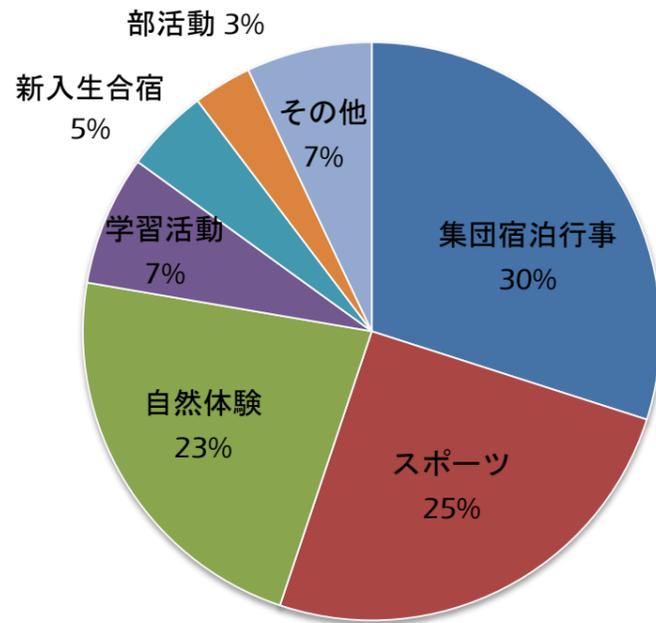
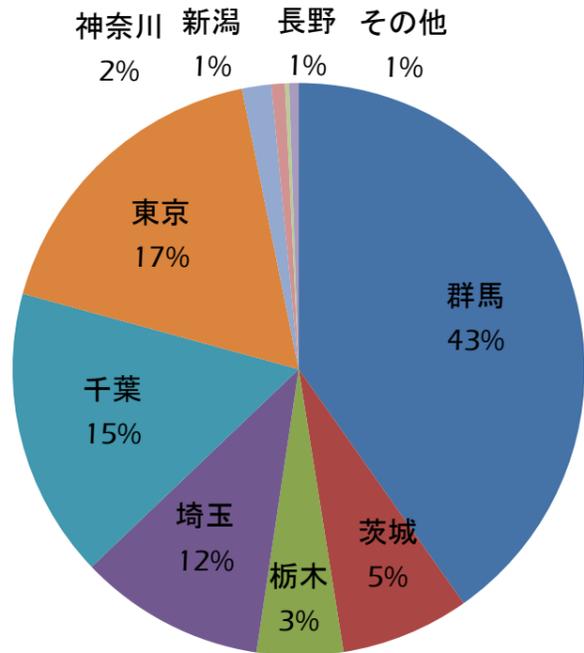
利用者構成比

延利用者数
124,955人



目的別利用者

地域別利用者



小学生バスケットボールクリニック・交流会



平成28年2月21日（日）於：新里体育館（桐生市）

子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業として、県内ミニバスケットボールチームの男女選手とコーチ、保護者を合わせて300人が参加する、富士スバルバスケットボールチーム（太田市）の選手によるバスケットボールクリニックが開催された。選手がパス、ドリブル、シュートなどのお手本を示し、子供たちと一緒に汗を流した。クリニックの最後は、スバルチームとの練習試合が行われ、社会人チームの圧倒的なスピードとテクニックに歯が立たなかったが、必死にボールを追う姿が印象的であった。

同社は、30年にわたり『スバルカップ』というミニバスケット大会を主催し、子供たちを応援し続けているが、このようなクリニックは初めてであった。

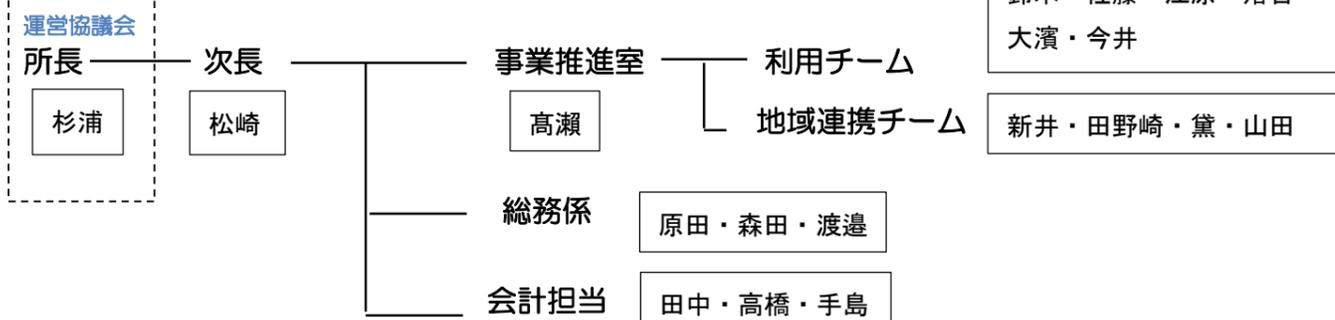
今後も地元の企業チームと子供たちの交流事業として続けていきたい。

施設整備状況



- 宿泊室畳入れ替え
畳があるC・D・E棟について、畳を新しいものに交換した。
- アクティビティホール改修
当所において体育館の次に広いアクティビティホールの床を張り替え内壁を塗装することで綺麗になり、カビ臭さもなくなった。吹奏楽の練習やダンス、レクリエーション活動として最適な施設となった。
- オリエンテーリングコース整備
- 浴室・脱衣場改修
浴室をクリーニングした。脱衣場のドライヤーも増設し、LED照明に交換した。
- 体育館の雨漏り修繕
- キャンプファイヤー用のベンチを購入
つどいの広場でキャンプファイヤーができるように、木製ベンチを20台設置した。

組織



平成27年度 主な教育事業

4月 あかぎ南ろく桜フェスタ (4/11)

満開の桜の下、第4回の開催となり、地域のみなさんに交流の家を知っていただく事業として定着している。当施設の体験プログラムには多くの参加者があり、1,500人を超える方々が訪れた。 ※交流の家には4種200本の桜があります。

風っ子ファーム (4月～年12回)

上毛新聞社、ぐんまフラワーパークほか地域の企業の協力を得て行われた通年の農業体験プログラム。14名の子供たちが養蚕農家の体験や大根の収穫も行った。

7月 教員免許状更新講習会 (7/29～31、8/7～9、11/21～23)

赤城の自然体験と人間関係を構築するためのプログラムを通じ、教員としての資質向上を図ることができた講習会になる。3回とも定員を超える参加者があった。

あかぎサンサンかがやきキャンプ (7月～年4回)

障がいのある子供たちを対象に、普段できない活動を通してチャレンジをする楽しさを学ぶキャンプができた。ボランティアスタッフが活躍したキャンプ。

8月 赤城やまなみチャレンジキャンプ (8/16～23)

8日間で赤城山を踏破する長期自然体験活動事業。全行程50kmを超える山道を歩き抜いた20人の子供たち。雨にも、暑さにも負けずにやり切った。

セルフディスカバリーキャンプ (8/17～25、11/1～3)

文部科学省委託事業として、ネット依存の状況にある青少年に体験活動と臨床心理士が行う認知行動療法などを組み合わせたプログラムを行った。

10月 秋のアウトドアフェスタ (10/25)

親子を対象に「火起こし」や「ツリークライミング」「野外ゲーム」などの体験フェスタを開催した。130人を超える参加者と群馬大学の学生ボランティアが30人以上参加してくれた。

11月 自然体験活動指導者養成事業 (11/21～23、12/7～10)

全国体験活動連絡協議会 (NEAL) が認定するリーダー養成講習会に35人が受講。また、12月にはインストラクター講習を行い、27人が受講した。

12月 福島子どもカプロジェクトふみだす探検隊 (12/25～28、1/9～11)

福島の子供たちを群馬に招き「自然を満喫しつつ自然の厳しさと人の温かさに触れる」キャンプを行い、2回の事業で66人の子供たちが参加してくれた。

1月 リスクマネジメントセミナー (1/17～18)

体験活動を行う際に必要なリスクマネジメントについて、専門的に学ぶ研修を自然体験活動推進協議会 (CONE) と連携し行い、42人の受講者があった。

2月 自然体験フォーラム2016 (2/14～15)

「想いでつながる、そして、はじまる」をテーマに北は北海道、南は熊本からも自然体験活動の実践者や学生など150人を超える参加者があった。パネルディスカッションに始まり、ワークショップはどれも大盛況で、熱気のあるフォーラムになった。



あかぎネイチャーガイドブック



表紙



内容 (植物のページ)

当所では、毎年《プログラム開発》に挑戦しており、今年は、交流の家のフィールドを使った自然観察に携帯できる“あかぎネイチャーガイドブック”を作成した。

このガイドブックは、「気になる⇒調べる⇒やってみる」をキーワードに作成したもの。

また、五感を使って触ったり、においを嗅いだりできるか、など分かりやすいイラストを付けてあるのでぜひ散策に持ち歩いてほしい。

あかぎ多文化共生推進事業

現在、群馬県には4万人を超える外国人が住んでおり、特に伊勢崎市や大泉町などは、在留外国人数が全国でも上位である。しかしながら、言葉や文化などの違いから、日本社会への適応がスムーズにできていない青少年も数多く存在する。在日外国人学校では、日本の小中学校で実施している林間学校のような宿泊体験活動はほとんど行われていない。国内のブラジル人の半数以上の定住化が進む中、キャンプのような活動を通じて、心を開放し、仲間をつくり、日本の良さに気づいてもらう機会はいよいよ重要なことである。そこで、当所では平成24年度から、地域のコミュニティづくりの一助になるような『多文化共生推進事業』に取り組んでいる。

【事業の概要】

- ① 在日外国人学校プログラム支援
群馬県内の在日外国人へ体験活動の場を提供する。
- ② あかぎ多文化交流キャンプ
日本の小学校に通う外国籍の親子にさまざまな体験活動を通じて交流する。
- ③ あかぎワールドキャンプ
国籍も言語もさまざまな在日外国人を対象にした交流の家で行うキャンプ。



平成27年度は、国立赤城青少年交流の家でふたつのキャンプを実施し、150人を超える参加者 (在日外国人、日本の小中学生、ボランティア) が交流した。

前橋市には、これらの活動をきっかけに在日外国人の交流事業を支援するAWC (あかぎワールドコミュニティ) という団体が有志により組織された。

学校プログラム支援

小学校等の受け入れについて、担当職員により、学校プログラムの企画から当日の実施、後日のふりかえりまで張り付きで支援する取り組みを試行的に行った（5校）。

学校名	日程	生徒（児童）数
熊谷市立熊谷南小学校	9/2～9/4	63名
西東京市立東小学校	9/14～9/16	44名
西東京市立東伏見小学校	10/19～10/21	80名
前橋市立下川淵小学校	10/21～10/23	90名
東京都立永福学園	11/4～11/6	124名



団体支援(出張指導)



職員が学校や教育委員会に赴き、教員や職員に当所のプログラムを体験していただき、効率的・効果的なプログラムの企画の一助としていただく取り組み。

実施対象	内容
群馬県内A小学校	親子行事における人間関係を深めるレク指導
群馬県内教育事務所	放課後子ども教室教育支援活動関係者へのレク指導
群馬県内市町村教育委員会	安全管理研修・クラフト指導



あかぎ体験お届け隊



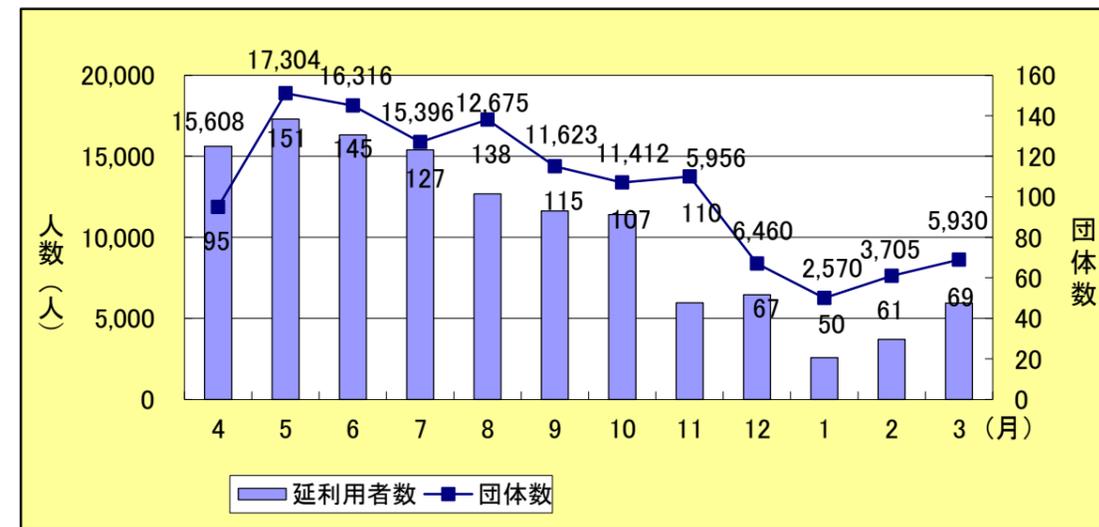
国立青少年教育振興機構では、子供たちの健やかな成長にとって体験活動がいかに重要かを家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める「体験の風をおこそう」運動を進めている。

当所では、さまざまな体験活動を所外に出かけて提供する取り組みとして“あかぎ体験お届け隊”を実施している。

平成27年度は、38事業を行い、3,126人の方々に体験活動の重要性をアピールできた。



月別延利用者数



団体数・延利用者数実利用者数



ボランティア養成

「ボランティアの養成に努め、運営や支援に関わることによってボランティア自身の自己実現も図られるような『育ちの場』であるよう努力します。」と運営計画にもあるように、養成されたボランティアが様々な活動を通して成長していく機会を提供することが、交流の家の役割である。

ボランティア養成セミナーを年2回実施し、50名の参加者が受講した。昨年度から取り組んでいる研修支援での指導や教育事業の運営サポートなど、様々な機会に能力を発揮できるようにした。

